

アールエフ、長野・須坂に新工場

カプセル内視鏡を生産

次世代タイプ 20年めど供給体制整備

【長野】アールエフ（長野市、丸山次郎社長、026・225・7700）は、長野県須坂市に新工場を整備する。取得した土地・建物を改装して活用。次世代型カプセル内視鏡の生産を2020年ごろに始める。改修費だけで20億円以上の投資を見込む。05年に開発を公表後、実用化の準備を進めてきた同内視鏡の供給体制を固め、事業の拡大をけん引する拠点とする。

取得したのは、旧富士通須坂工場。敷地全体の面積は約5万4000平方メートルで、15年までは太陽誘電モバイルテクノロジー（東京都青梅市）が賃貸していた。取得額は非

か、時期は未定だが第二内視鏡の研究開発・生産研究棟を新設。カプセル拠点として位置づける。



生産を予定するのは開発中のカプセル内視鏡「Sayaka」。直径9ミリ、長さ23ミリ。二重構造となっており、内部のカメラ部分が360度回転し、消化管の壁面全体を対象に約78万枚の画像を撮影する。バッテリー

アールエフが取得した旧富士通須坂工場

レスで作動。被験者が着用したジャケットに内蔵した電磁コイルを介し、電力や画像を送受信する。データをつなぎ合わせて「体内マップ」を作成できる。

新工場での生産が初めてとなる。生産能力など詳細は今後検討する。地元の人材を積極的に雇用するほか、地域企業との取引や技術協力を推進する方針。

アールエフは医科・歯科・産業用のカメラやX線CT（コンピュータ断層撮影）で国内トップクラスのシェアを持つ。93年の創業以来、国内生産にこだわり、高性能・低価格製品の生産体制構築を進めている。16年5月期の売上高は120億1200万円。